

オンブズマンが市政に関する苦情を調査します

平成23年11月に開始したオンブズマン制度は今年で12年目となります。11月からは、**崎坂オンブズマン**と**三藤オンブズマン**が公平かつ中立的な立場で簡易迅速に調査を行うことで、市民の皆さんの権利と利益の保護を図り、市政に対する理解と信頼を高めます。

オンブズマンから市民の皆さんへ

本市オンブズマンに再任された**崎坂 誠司**です。これまで2年間オンブズマンとして活動しさまざまな案件を扱ってきましたが、市民の苦情がもっともという案件もある一方、理由なき苦情もありました。オンブズマンは苦情を申し立てる市民とその苦情の相手である行政との架け橋の役を担っており、一方の代弁者ではありませんので、公平中立を旨に、熊本市オンブズマンとして、市民と行政が互いの思いを理解しあえるようなより良い熊本市を目指していきたいと思います。今後もよろしくお願いします。

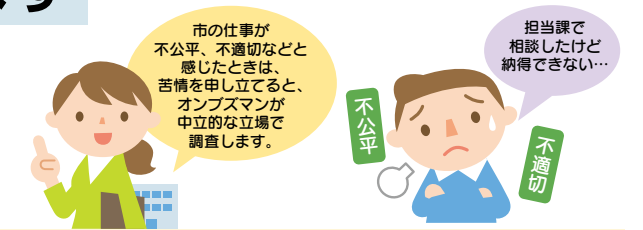
市民と行政の橋渡し役



崎坂 誠司(弁護士)
(再任 令和3年11月～)



三藤 省三(弁護士)
(新任 令和5年11月～)



このたび、熊本市のオンブズマンに就任しました弁護士の**三藤 省三**です。

オンブズマンは主として市政に対する市民の苦情を公平かつ中立的立場から調査・検討し、適切な解決に導くことをその役割としています。あわせて、市政を監視し、必要により制度の改善について意見を表明する立場にもあります。すでに熊本市のオンブズマン制度は始まってから10年を経過しています。これまでの活動実績を参考にし、弁護士としての経験も生かして、オンブズマンとしての大事な役割をはたしていきたいと思っています。

○苦情申立ての方法

事務局、各区役所、まちづくりセンターに設置している書面(苦情申立書)を持参、郵送、ファクスで事務局に提出してください。Eメール、ホームページのフォームメールでも受け付けています。申し立て後、希望があれば、オンブズマンと直接面談ができます。

詳しくはこちら



(オンブズマン事務局 ☎096-328-2916)

フッ化物塗布事業が始まります

一度むし歯になった歯は、治療をしても元の状態に戻ることはありません。

本市のこどもはむし歯が多いことから、むし歯予防の効果が科学的に示されている「フッ化物塗布」事業を開始します。

フッ化物歯面塗布とは

歯科医師や歯科衛生士が歯の表面に比較的高濃度のフッ化物溶液やゲル(ジェル)を塗布することによって、むし歯になりにくい強い歯にする方法です。

年に2回以上続けることで効果が出ます。



開始日 11月1日(水)～

対象者

1歳児、2歳児、2歳6か月児

※1歳6か月児健診時、3歳児健診時にも希望者は無料でフッ化物塗布を受けられます。

費用 無料

受診方法

①生後8か月ごろにフッ化物塗布券が付いた「歯の健康手帳」が本市から送られてくる

②対象の年齢になったら協力歯科医療機関に予約する

※協力歯科医療機関は、「歯の健康手帳」に記載のQRコードからご確認ください。

③予約日に「歯の健康手帳」(フッ化物塗布券を含む)、普段使用している歯ブラシ、親子(母子)健康手帳を持って歯科を受診する

(健康づくり推進課 ☎096-328-2145)



ドン ドン 市長と語ろう! 産業版

開催日:8月3日(木)午後6時～8時

会場:熊本市役所 本庁舎5階庁議室

8月3日(木)に「産業版 市長とドンドン語ろう!」を開催しました。

ポストコロナ社会において、本市の新たな観光スタイルを構築するにあたり、観光客のさまざまなニーズに対応した効果的な情報発信等について、観光業界の皆さんと意見交換を行いました。



これからは、経済発展に伴い旅行需要が増加している海外(特にアジアの富裕層)にターゲットを絞って、情報発信を行うべきではないでしょうか。

現在、円安の進行もあり、インバウンド需要が増加していることから、「稼ぐ観光」のためには、海外の観光客に向けて、本市の魅力を発信していくことが重要だと考えています。

また、地域の観光資源を生かした新たな魅力を創造することで、本市における観光の価値を高め、観光客の旅行消費額の増加にも、取り組みます。



熊本城には、県外の方が見学をする際などに、歴史や文化を丁寧に説明してくれるボランティアガイドの方がいらっしやいます。水前寺成趣園においても、園内を一周回れば、細川文化の理解が深まるような工夫を施すなど、ストーリー性を持たせた情報発信が重要だと思います。

観光地の魅力を正確に、より効果的に伝えるためには、歴史や文化を良く理解した上で、ストーリーを構築し、情報発信していくことが重要だと考えています。

例えば、ジェーンズ邸は、西南戦争の際に、敵味方なく負傷者を救助したいと願った佐野常民が、日本赤十字社の前身となる「博愛社」を創設した場所です。このような歴史的な側面や人物像等の情報を、観光客の皆さんにわかりやすく発信するよう努めています。



効果的な観光振興のためには、地域間での協力が不可欠です。例えば、ホテル等において、満室で宿泊をお断りする場合には、「お時間があれば、阿蘇に泊まりませんか」など、相手のニーズに沿った各地の魅力的な観光地をご案内できれば、熊本の印象は、さらに良くなると思いますので、今後も県や県内自治体との連携を図り、観光振興に取り組んでまいります。

※内容は開催日時点のものです。



観光分野における取り組みは、熊本市単独で考えるだけではなく、例えば、阿蘇に宿泊した観光客が、翌日、熊本市へ足を運んでもらえるような仕組みを考えるなど、県内全体を見据えた検討が必要だと思います。